

第3表. 麦・大豆の異型栽培による青刈菜種の栽培(3区平均, 1955~'57)

小麦 (ナンブ コムギ)		大 豆				5月2日 (とう立ち ち揃い)		備 考
うね巾	まき巾	株 間	品 種	成熟期	茎 長	草 丈	10a 当り 生 草 量	
cm	cm	cm		月日	cm	cm	kg	
60	18	24	農林4号	10.19	64.9	—	—	9月15日まき(1.08ℓ) 農林16号. 硫安7.5kg, 過石11.25kg施用.
60	18	24	十勝長葉	10.3	41.7	30.5	213	
90	27	16	農林4号	10.19	63.6	13.1	79	
90	27	16	十勝長葉	10.3	43.8	37.8	373	

注: 生草量検定 うね巾 F=9.6\*, 品種 F=192.6\*\*, うね巾×品種 F=20.0\*\*

第4表. 大豆間作青刈菜種の省力種まき法(2区平均, 1957~'58)

区 名	草 丈	10 a 当り 生 草 量	備 考
	cm	kg	
条まき, クワ覆土	41.6	1,308	5月7日刈取り(とう立ち揃い). 9月11日種まき 0.9(13.5)ℓ. 青森1号. 前作大豆は十勝長葉. 4月5日 硫安 11.25kg追肥.
散しまき, カルチ覆土	40.8	1,286	
" , 無 覆土	44.0	1,561	
50%増条まき, クワ覆土	43.8	1,733	
" 散しまき, カルチ覆土	43.4	1,842	
" " , 無 覆土	41.1	1,308	

## 大豆間作秋冬作飼肥料作物の 導入に関する実際的研究

### 第2報. 麦・大豆の栽植様式の差と秋作物の間作

千 田 長 二・清 原 悦 郎

(岩手県農試九戸分場)

うね巾を90cm位まで広くしてまき巾率を30~40%としてまいた麦のうね間に、株間をつめて1条に間作した大豆の麦刈り後にうね間はやはり広いのであるから、早生大豆であれば最終培土後(7月末)秋作飼肥料作物のまき付けが可能であるかどうかについて小岩井カブを用いて試験した。

結果は表に示すとおり、2カ年ともに普通うね(60cm)の大豆のうね間の方が広巾うねの異型栽植された大豆のうね間より多収であり、60cmうねでも大豆を麦うねの隔

行両肩まきした区が多収傾向を示した。この理由は麦間作害の少ない広巾うねの大豆がより繁茂したことによるものであって、広巾うねでは大豆が軽い間作害をうけたが、小岩井カブは強い間作害をうけたことになる。従ってこのような方式を計画的に採用することは困難であると思われ。

前作麦大豆のうね巾や栽植方法の如何にかかわらず、大豆の生育が貧弱でうね間があいているような場合には雑草抑制や土地利用上採用してみる程度の方法である。

### 試 験 成 績 (3区平均, 1957)

年次	前 作 大 豆 (十勝長葉)		株 間	葉長	10 a 当り (kg)			備 考		
	うね巾	種まき様式			株間	全 重	根 重		同比(%)	
	cm		cm	cm						
1	60	うね間	24	100	24	32.4	1,705	1,238	100	7月29日まき (検定) 根重 F=18.1*
9	60	隔行両肩	24	100	12(2条)	34.3	2,352	1,793	145	
5	90	うね間	16	137	16(〃)	31.6	895	600	48	
7	90	"	16	144	16(〃)	33.5	1,388	870	70	
1	60	うね間	24	100	24	37.3	2,904	2,329	100	7月28日まき (検定) 根重 F=7.0*
9	60	隔行両肩	24	101	12(2条)	47.6	2,965	2,309	99	
5	90	うね間	16	151	16(〃)	44.1	1,966	1,422	61	
8	90	"	16	129	16(〃)	44.5	3,066	2,380	101	